

会 議 報 告 書	
会 議 名	令和2年度第2回草津市社会教育委員会議
日 時	自 10時00分 令和3年1月13日(水) 至 11時30分
場 所	草津市役所2階 特大会議室
出 席 者	委員：横山委員(委員長)、長橋委員(副委員長)、伊庭委員、橋本委員、 北川委員、内田委員、湯浅委員、山本委員、藤内委員、矢野委員 山田委員、磯嶋委員、澤村委員、中瀬委員 事務局：居川教育部長 生涯学習課 上原課長、矢野係長、井上主任 図書館 二井副館長 傍 聴 人：なし
会議関係書類	<input checked="" type="checkbox"/> 有(別添のとおり) <input type="checkbox"/> 無

1. 部長挨拶 (教育委員会部長)

2. 委員長挨拶

3. 議事

1) 読書ボランティア人材養成講座の概要について

資料1、資料2により事務局から説明。

<事務局説明>

- ・図書館司書による講座と外部講師による講座を組み合わせ、読書ボランティア人材の養成講座を実施する。
- ・図書館司書による講座により「絵本の読み聞かせに関わるスキル」、外部講師による講座により「地域活動に関わるスキル」の習得を目指す。
- ・図書館司書による講座では、これから地域活動を行う上で、基本的な考え方を学んでいただき、自立した活動ができる人材の養成を目指す。
- ・養成した人材は、様々な地域活動にマッチングを行っていく。

2) 読書ボランティア人材養成講座 講演会の開催および動画収録について
資料3、資料4により事務局から説明。

3) 養成人材の地域活動へのマッチングについて
資料5、資料6により事務局から説明。

質疑・意見

(A 委員)

3月12日から14日の正置友子氏のオンライン講演会は、この期間に受講できない方向けに、DVDの貸出などを行う予定はないか。

(事務局)

講演会の期間を限定することおよび事前申込制として対象者を限定することを条件に、講演会での絵本の使用許諾を得ているため、期間外に閲覧いただくことは難しい。

(B 委員)

子どもが絵本を読むことは素晴らしいことだと感じている。子どもにより解釈が様々であったり、絵本作家と対話しているような気持ちになったりする点が、良いことだと思うが、なぜ、子どもと絵本を読むことが良いのか、教えてほしい。

(事務局)

例えば、絵本を子どもに読み聞かせる親としては「勉強ができるように、読解力をつけさせたい」という考えをお持ちの方もいらっしゃると思う。そのような考え方も、間違いではないと思うが、別の考え方もあるのではないかと思う。詳しくは講座でお話していくので、御期待いただきたい。

(C 委員)

絵本は幼児教育・保育においては、とても大事なことだと感じている。コロナ禍のため、研修の機会が減っているので、オンライン講演会はとても良いと思う。今のこども園には地域貢献も求められているが、具体的にどのような地域貢献をしているのか、難しい課題だと感じている。例えば、こども園の保育士が公民館で、地域の方々に読み聞かせを行うという方法も選択肢としてはあると思う。

(D 委員)

0歳児から大人までの読み聞かせに関わっている。絵本は、小説と違って、大人でも入りやすい部分があり、老若男女、皆さんが使える道具であると思っている。

毎月1回、大人を対象に、持ち寄り絵本会を開催している。また、コロナの関係で今は取り止めているが、絵本と音楽をコラボさせたイベントを過去4回実施していた。回を重ねる度に参加者が増えており、大人の方も絵本に関心が高いと、日々感じている。養成講座について、情報発信はしているのか。

(事務局)

今回の会議で皆様の意見を踏まえ、養成講座の内容を決定し、皆様に周知させていただきたいと考えている。

(D 委員)

この養成講座を受けられた方は、その後、地域で活動ができるということか。

(事務局)

養成した人材を地域の活動につなげていくことが、今期の取組の重要なポイントであるので、多くの方に地域で活動いただきたいと考えている。

(E 委員)

今回実施する講座で学ばれた方々に対しては、地域に出て行ってボランティア活動等されることを期待されていると思うが、例えば、個人的にそれを学んで自分のお孫さんに読み聞かせをするという発想の方も受け入れていくのか。

(事務局)

講座の受講対象として要項では「地域等での活動に積極的に参画する意欲のある方」としているが、学習成果を個人の活動に活用される可能性もあると思う。一方、そのような方にも、地域活動の大切さや意義を学んでいただき、地域活動に誘導していくことも今回の取組の大切なポイントだと考えている。

(A 委員)

私は民生児童委員をしており、毎月2回、絵本の広場という絵本の読み聞かせの事業を行っているが、親子で参加される方が多い。事業に携わって、絵本の読み聞かせは「百利あって一害なし」、良いこと尽くめであると感じている。

親子で参加されているので、おそらく家に帰ると子どもたちはまた、一緒に来た親と絵本を読む。そこでまたコミュニケーションが成立するのかなど。

親も読み聞かせをすることで、学習機会にもなり、そういったことが続けば、将来、ボランティア人材として活躍していただけるかもしれない。もしかしたら、社会教育委員になってくれるかもしれないし、民生児童委員になってくるかもしれない。そういう展開もあるかなと感じている。

(F 委員)

民生委員の活動として、赤ちゃん訪問や高齢者の見守り活動を行っている。読み聞かせの活動も行っているが、あまり住民の方に周知されておらず、もったいないと感じている。活動を周知するのであれば、各学区のまちづくりセンターにチラシを置いていただきたい。また、講座の会場をまちづくりセンターに設定するのも一つの方法だと思う。

(G 委員)

私が所属している団体に、草津宿本陣から、本陣に伝わる昔話を、市民に知っていただくため紙芝居にしたいという相談を受けた。昔話を再編集して、紙芝居をつくり、本陣で実演をした。作った紙芝居は団体でも活用している。また、老上まちづくりセンターから学区の昔話の紙芝居の読み聞かせの講習の依頼を受け講習会を行い、大変好評であった。

紙芝居や絵本はお話が分かりやすく、とても楽しい。地域での活動のツールとして大変役立つと感じている。

(H 委員)

講座の対象として、「絵本に興味のある方」と「地域活動に参加したい方」とされているが、正置友子さんのチラシ（資料4）では、「地域活動に参加したい方」への訴求力が乏しいと感じた。絵本に興味のなかった人を巻き込んでいくには、講座自体のハードルが高く感じる。

例えば、子ども食堂で地域の方が、子どもたちに何かしてあげたいと、紙芝居をしてくださった。その方は、読み聞かせをしたことがあったわけではなく、子どもたちに何かしてあげたいということで、紙芝居を選ばれた。その方にとっては、紙芝居が手段だった。入口としては手段として入ってこられて、そこから絵本に興味を持っていただくような形で、「地域活動に参加したい方」も巻き込んでいけると良いのかなと感じる。その際は、チラシの作り方など一層の工夫が必要だと思う。

(I 委員)

私は小学校の図書館ボランティアとして、10年以上活動している。コロナのため、子どもたちへの読み聞かせは、春からはまだ1回も出来ていない。

3学期は、場所を変えるなどして、なんとか読み聞かせができないか、今検討しているところ。

一方、2学期から小学校でタブレットが配布されたので、図書館に来る子どもが減ってしまった。タブレットに勝とうという気持ちではないが、本の楽しさを子どもたちにどう伝えていくか、図書館ボランティアの皆で考えている。

そういった状況もあり、絵本や本のすばらしさを伝えていく活動を、子どもが小さい頃からしていくことが、大切だと改めて感じている。

また、私は大人のための絵本会を開催しているが、最初は参加者として30代、40代の方が多かったが、回を重ねるごとに、70代、80代、90代の方の参加が増えていく。小説は読むのが大変という方も、絵本だと読みやすく、内容も理解し易いと、絵本の素晴らしさに気づく方が増えてきていると感じている。

今は読み聞かせをすることが難しい状況で、周囲のボランティア等から、読み聞かせをする場所がないという意見を聞く。様々な地域活動をリストアップしていくとき、具体的にどこで読むことができるのかという情報もあると、活動がイメージしやすいと思う。講座について、定員を30人としているが、定員を上回った場合どうするのか。

(事務局)

例えば講座を2回に分けるなど、お申込みいただいた方全員が受講できる配慮は検討したいと思う。どうしても無理な場合は抽選のような形になる可能性もある。

(I 委員)

講座を受けた方を地域活動につなげるというのは、市が各団体と受入の調整をするということか。

(事務局)

本人の意思や、団体の意向を踏まえ、市で調整をしていきたいと考えている。

(J 委員)

養成した人材に活躍していただく場として、各まちづくりセンターなどの子育てサロンやのびっ子などを活用していただきたい。

また、小学校高学年になると、絵本というと少し興味が薄くなることもあると思うので、例えば、英語の絵本の読み聞かせをするなど、絵本のジャンルを変えると良いと思う。

(K 委員)

普段から子供たちと自然体験など様々な活動をしている。

例えば、活動の中で、おばあちゃんと出会って、おばあちゃんが絵本を読んでもくれる時がある。その時、子どもたちは今までと全然違う感じでお話を聞いてくれる。そのおばあちゃんの声が子どもたちにすごく響いているのだと思う。

いろんな場面で、子どもたちは吸収する力があるので、本当は大人が絵本はこう読まなければならない、絵本はこう持たなければならないなどと、教える必要はないのかもしれないが、絵本の読み聞かせができる人が増えることはよいことだと思う。

講座を受けた方が地域で活動され、その活動を見た別の方が、感銘を受け、また別の地域の活動に繋がっていくような仕組みを考えていくことも大切だと思う。

(L 委員)

私の所属している寺子屋教室では絵本の読み聞かせは行っていないので活動の受入はできないかもしれないが、スタッフが読み聞かせをできれば、子どもたちにも本の良さや絵本の楽しさを伝えることができると思う。

(副委員長)

皆さんの話を聞いて、子どもに絵本を読み聞かせることは大事だと再認識した。

また、意見としていただいたが、読み聞かせている時間だけでなく、読み聞かせの後、子どもが自宅で絵本を読んだり、親と一緒に絵本を読んだりする時間、あるいは様々な活動の中で絵本を読み聞かせることなど、実際に読み聞かせている時間以外のところにも、大切な時間があると感じた。そのような観点も含め、絵本や絵本の読み聞かせに関わる方の学びに繋げていくことが重要だと思う。そういう意味で、正置友子さんの講演会の副題が「子どもたち“に”絵本を読むということ」でなく「子どもたち“と”絵本を読むということ」となっているのは素晴らしいと思う。

(委員長)

委員の皆様はすでに、絵本に関する様々な活動に携わられており、「絵本」というのは、非常に裾野の広い分野だと改めて認識した。

社会教育・生涯学習という分野は市民協働と隣接した領域であり、事務局である生涯学習課だけの取組でなく、まちづくり協働課等とも連携していくことが今後の課題だと考えている。来年度は講座を踏まえてさらに発展していけるよう、事務局でも他部署との連携の検討を進めていただき、また、委員の皆様からも提案をいただきたいと思う。

委員の皆様の積極的、肯定的な意見をたくさんいただいたので、修正すべきところは修正をしながら、取組を進めていきたいと思う。

4. その他

事務局から今後のスケジュールについて説明

閉会